**○主題**：人工知能（AI）の軍事利用：致死性自律兵器の脅威

**○副題**：致死性自律兵器は、軍事に第三の革命をもたらすか？

**○本文**：

致死性自律兵器（Lethal Autonomous Weapon Systems:LAWS）の実戦配備に警鐘を鳴す「Army of None : Autonomous Weapons and the Future of War」（無人の軍：自律兵器と戦争の未来）が出版されている。著者は、Paul Scharreで、米陸軍 第75レンジャー連隊の特殊作戦偵察チーム指揮官としてイラク・アフガニスタンに従軍した経歴を持ち、現在はCenter for a New American Securityのシニア・フェローである。LAWSは、人間の介在なしに、敵味方を識別し自律的に攻撃可否を判断し実行する兵器である。人工知能やロボット技術を軍事分野に無制限に適用しLAWSを開発するリスクは、米軍関係者もその危険性を認識し、他国が致死性自律兵器を開発し配備した場合、米国も同様の対抗策を講ずるとの見解を示している。米軍の研究機関も致死性自律兵器の開発を行っているが、LAWSを実戦配備するか／しないかが、今後の軍事環境を大きく左右する可能性がある。

LAWSは、原水爆、RMA（Revolution in Military Affairs）に次ぐ、軍事の第三革命との意見もあり、一度開発され実戦配備してしまうと些細な軍事衝突が、予期しない範囲に拡大し、人間の介在しない戦闘は、予期しない悲惨な結果を人類にもたらすことは容易に想像できる。また、LAWSへのサイバー攻撃も想定されており、戦場だけでなく、サイバー空間での自律システム同士の戦いが際限なく行なわれるとも指摘されている。

2016年1月の世界経済フォーラム（ダボス会議）では、「What If: Robots Go to War?」と題して、人工知能とロボットの融合による新たな軍事技術がもたらすリスクに警鐘を鳴らしている。国防総省は、LAWSや人工知能の分野でも技術覇権を確かなものとする為、2017年だけでも74億ドルの予算を投入している。

今年夏に亡くなった稀代の戦略家であるアンドリュー・マーシャルが警告したように、今後、米中露やEUなどを巻き込んだLAWS軍拡競争が激化することが懸念されている。

**○主要参考文献（含むURL）**：

★「Army of None - Autonomous Weapons and the Future of War」

<http://books.wwnorton.com/books/Army-of-None/>

<https://www.amazon.com/Army-None-Autonomous-Weapons-Future/dp/0393608980/ref=mt_other?_encoding=UTF8&me#reader_B073VXYD5P>

★Center for a New American Security（ポール・シャーレの経歴等）

<https://www.cnas.org/people/paul-scharre>

★Noel Sharkey, “Robot wars are a reality,” the Guardian, August 18, 2007 <http://www.theguardian.com/commentisfree/2007/aug/18/comment.military>

★Future of Life Institute

<https://futureoflife.org/?cn-reloaded=1>

★Autonomous Weapons: an Open Letter from AI & Robotics Researchers（2015年）

<https://futureoflife.org/open-letter-autonomous-weapons/>

★An Open Letter to the United Nations Convention on Certain Conventional Weapons（2017年）

<https://futureoflife.org/autonomous-weapons-open-letter-2017/>

★Artificial Intelligence at Google-Our Principles

<https://ai.google/principles/>

★Project Maven DSD Memo 20170425（添付ファイル参照）